

フィリピン班

宮原敏 （細菌学分野 MD-PhDコース）

久保山雄介（医学部医学科3年）

深水倫子 （医学部医学科3年）

大保文香 （医学部保健学科2年）

野田美香 （医学部保健学科1年）

本島恵理香（医学部保健学科1年）



活動目的

- レプトスピラ症の予防対策の取組みをLEPCONプロジェクトを通じて学ぶ
- 流行地、マニラの衛生環境視察
- レプトスピラの分布調査

活動期間：8月2日～9日

レプトスピラ症

Leptospira interrogans

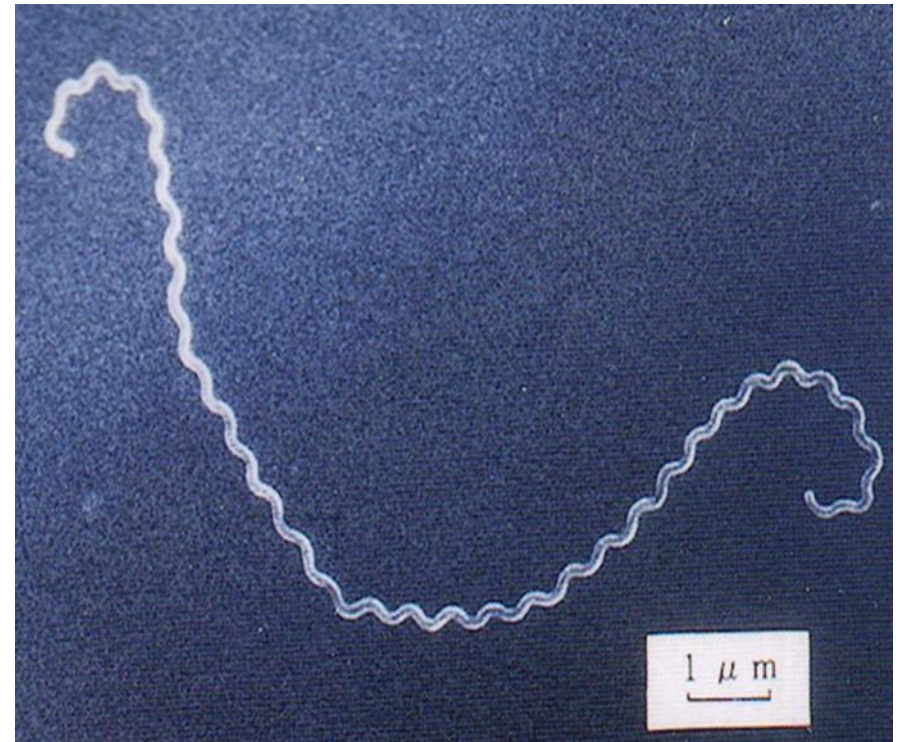
病原細菌の一種

レプトスピラ症の原因菌

(発熱・頭痛～黄疸・腎不全～死亡)

ドブネズミが宿主、尿から排出

皮膚から感染



レプトスピラ症

・日本

20世紀初期：農村、炭鉱を中心に発生



現代：年間10～20例

・世界

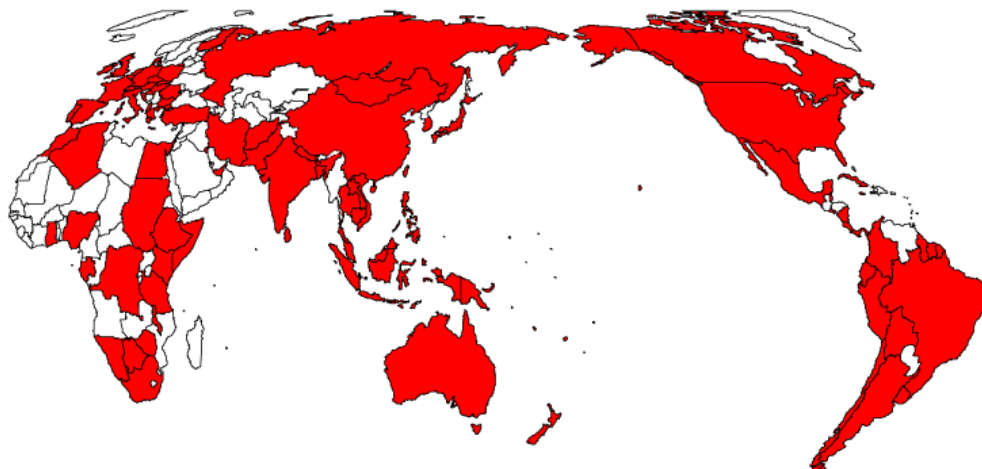
年間50万人（推定） 死亡率10～20%（推定）

熱帯地方の**発展途上国**で集団発生

← 研究・予防対策が十分に行われていない

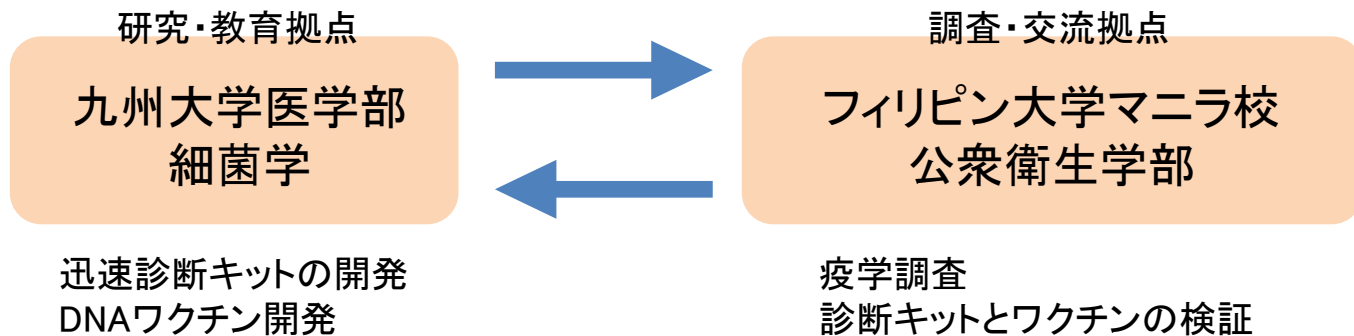
図1. 世界のレプトスピラ症

ヒトレプトスピラ症発生事例、動物のレプトスピラ症発生事例およびヒト、動物の血清疫学の陽性事例のあった国



LEPCON

レプトスピラ症の予防対策と診断技術の開発



ワーキンググループ

- A. 微生物学的研究
- B. レプトスピラ症の疫学と疾病負担
- C. 環境因子の解析
- D. 啓蒙活動

活動報告

- 現地調査
 - ドブネズミの捕獲
 - 環境水の採取
- 研究室訪問
 - レクチャー
- インタビュー
 - プロジェクト調整員、JICA職員
- 病院見学
 - マカティ・メディカル・ホスピタル(私立)



- 1日目 入国
- 2日目 フィールド調査
ネズミ解剖
- 3日目 洪水
- 4日目 洪水
JICA調整員への
インタビュー
- 5日目 JICA事務所訪問
私立病院見学





売り物の魚



市場の客...



感染経路



ドブネズミ
の尿



経皮感染



水たまり

水たまりは感染リスク！！

市場に行った目的は...？

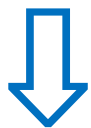
- ①市場のネズミを捕獲
- ②環境水の採取



レプトスピラの菌の有無を
確認するフィールド調査



BUT...



大雨のため回収不可能



どのくらいの大雨...？



before → after



街の様子



なぜ予防をしようとしらないのか...？



①教育が不十分

②慣れ



できたことは多かった！

大雨にもかかわらず

- ネズミ捕獲
- 解剖
- インタビュー
- 病院見学



できたことは多かった！

やり残したことも多かった...

やり残したこと

- ネズミの捕獲(分布状況)
- WHO訪問
- 市中病院
- レプトスピラ症患者 etc...

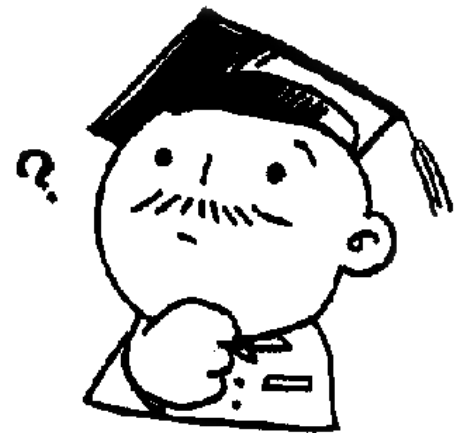
これをそのままにしておくのはもったいない！
この活動をもう少し続けられないだろうか

私たちは継続した活動について
考え始めた

最近5年の活動地

2007	キューバ	フィリピン	インド	中国	ミャンマー	
2008	インドネシア	沖縄	インド	福岡		
2009	ブラジル	モンゴル	沖縄	大分	タンザニア	
2010	メキシコ	フィリピン	長崎・沖縄	バングラデシュ	カンボジア	トルコ
2011	リトアニア	タイ	宮城	福岡		
2012	ケニア	フィリピン	千葉			

なんで単年の活動が多いのだろう
か？



単年の活動

良い点

- 気軽に班立てられる
- 後継者を探す必要 無
- 受入先の負担 少
- 自分の思いつき 即実行

問題点

- 経験が十分に生かされない
- 知識と考察 質、量 制限

実際、学生の国際保健活動の多くは単年

継続した活動

良い点

- 深い人間関係
- 新入生向け
- 活動のレベル 向上
- より深い知識、考察
- その国をよく知る
- 反省点を活かす

問題点（難しいところ）

- 安定した拠点探し
- 通年の負担 増加
- 後継者確保
- テーマの将来性
- 受入先の都合

思ったこと①

フィリピン班では継続的な活動を行うには

恵まれた条件がそろっていた



九大の細菌学教室の吉田教授
(Lepconプロジェクトの代表者)



安定した拠点確保

継続した活動

良い点

- 深い人間関係
- 新入生向け
- 活動のレベル 向上
- より深い知識、考察
- その国をよく知る
- 反省点を活かす

問題点（難しいところ）

- ✓ 安定した拠点探し
- 通年の負担 増加
- ✓ 後継者確保
- ✓ テーマの将来性
- ✓ 受入先の都合

フィリピン班の活動が、
今後の継続した活動の試金石

フィリピン班の活動計画

期間：3年・・・LEPCONに密着

フィリピン班

Lepcon(5年間)

2012	(1年目)	現地との関係づくり 大流行の現場を見れた	(3年目)	中間評価
2013	(2年目)	流行の影響、住民の変化を見る サンプル採取、分析	(4年目)	
2014	(3年目)	プロジェクトの成果と課題 どう次につなげるか	(5年目)	プロジェクト終了 事後評価

在学中に活動の終了を見届けられる

3年間見守ってね♡



思ったこと②

しかし、、、

フィリピン班のケースは稀

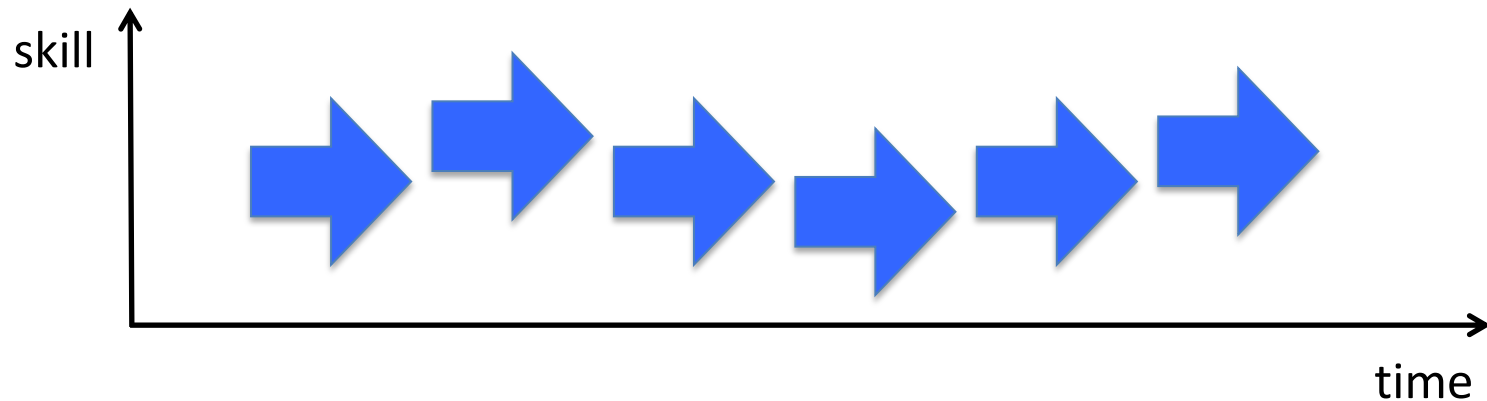


多くの班は単年での活動をせざるをえない



個々の班がバラバラに活動するのは
もったいない

熱研の現状



年ごとに積み上がるものが少ない

活動ごとの出来不出来は運、個人の能力によっている

このままで、団体としての
活動のスキルは向上するだろうか？

単年の活動による
継続性を目指す

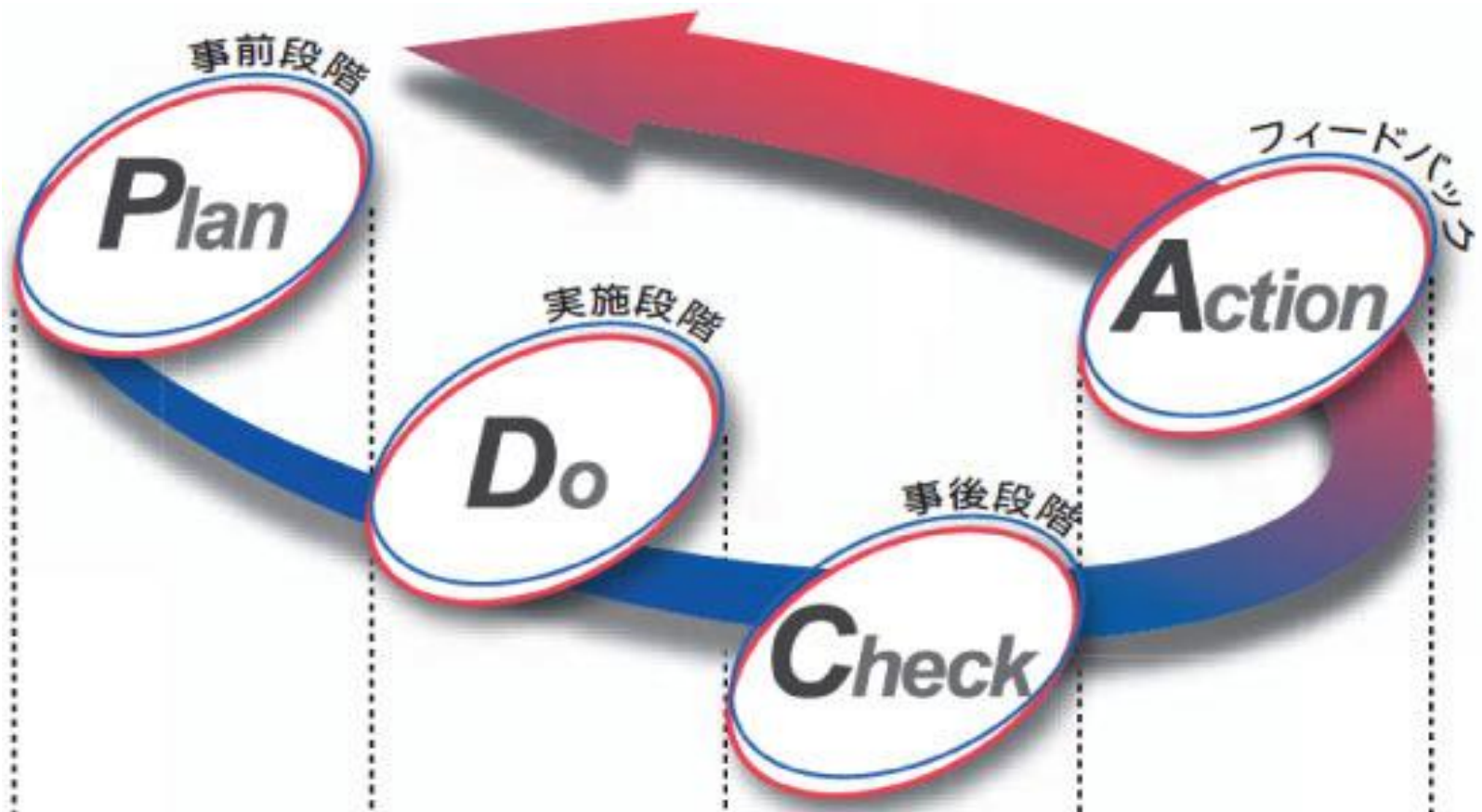
JICAのアプローチ

JICAでは...

異なる場所、異なるテーマのプロジェクトを
いくつも抱えている

あるプロジェクトで得た教訓を別のプロジェクト
に活かしている

PDCA



↑ Plan :活動内容、想定される成果
5年間 Do :進捗状況、成果の見込み、反省、軌道修正
↓ Check:全体のまとめ、成果が得られたか
Action:提言・教訓の抽出→別のプロジェクトへ

提案する熱研



ある活動で得た教訓・提言を抽出→部活全体にフィードバック

類似のテーマ、活動地での活動に際し

過去の教訓を活かしてよりよい活動を行える

今の活動班での反省点を
その代の報告会・報告書だけで終わらせない！

提案

- 国ごと、地域ごとに扱い得るテーマ
- 信頼出来る人脈、受入先情報
- 避けるべき失敗、対処法
- あるテーマに関して、やったほうが良いこと

まとめ

- フィリピン班の3年計画
 - 今回の班が今後の活動の試金石
- 活動班の提言・教訓の抽出
 - 将来よりよい活動をおこなうために